



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

整形外科

ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう

腰部脊柱管狭窄症について

整形外科の外来を受診される患者さんの症状で多いのは腰痛、頸部から肩の疼痛、膝・股関節痛などです。このうち腰痛は臀部から下肢にかけての疼痛・しびれを伴うことがあり、その代表的疾患が**腰部脊柱管狭窄症**です。

【症 状】

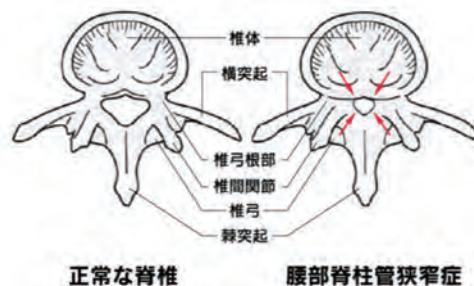
この疾患の最も特徴的な症状は、歩行と休息を繰り返す**間歇性跛行**(かんけつせいはこう)です。腰部脊柱管狭窄症では腰痛はあまり強くなく、安静にしている時にはほとんど症状はありませんが、背筋を伸ばして立っていたり長く歩いたりすると、ふとももや膝から下にしびれや痛みが出て歩きづらくなります。しかし、少し前かがみになったり、腰かけたりするとしびれや痛みは軽減されます。進行すると、下肢の筋力が低下したり、肛門周囲の感覚異常や尿の出が悪くなったり、尿が漏れることもあります。

【原因と病態】

脊柱管は背骨、椎間板、関節、黄色靭帯などで囲まれた脊髄の神経が通るトンネルです。年をとると背骨が変形したり、椎間板が膨らんだり、黄色靭帯が厚くなって神経の通る脊柱管が狭くなって(狭窄)、それによって神経が圧迫を受け、神経の血流が低下して脊柱管狭窄症が発症します(図1)。

圧迫の程度や形態により**馬尾型**(両側下肢の痺れが主)と**神経根型**(一側の下肢痛・痺れが主)に分類されます。椎間板ヘルニアに比べ中高年に発症することが多いようです。また背骨を後ろに反らすと脊柱管が狭くなり、前に曲げると広がるので、間歇性跛行が起こるといわれています。

図1



整形外科

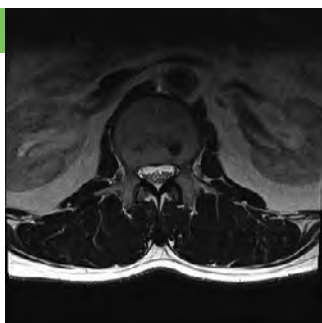
ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう

腰部脊柱管狭窄症について

【 診 断 】

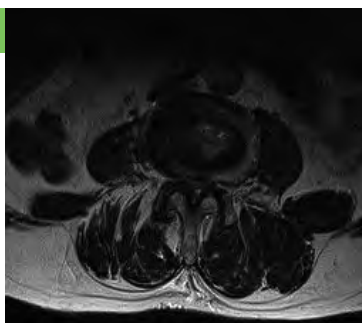
単純X線(レントゲン)写真で、ある程度は推測できますが、より詳しく診断するためにはMRI(核磁気共鳴画像)や脊髓腔造影(検査後の安静が必要なため当院では一泊入院していただいています)などの検査が必要となります。

図2



正常のMRI腰椎横断像

図3



腰部脊柱管狭窄症のMRI



【日常生活上の注意】

神経の圧迫は、前かがみになるとやわらぎますので、歩く時には杖をついたり、シルバーカーを押したりして腰を少しかがめるようにしましょう。そうすると楽に歩けます。また、自転車も痛みが起こりにくいので、よい運動になります。



【 治 療 】

手術以外の治療としてはコルセット、神経ブロックや脊髓の神経の血行を良くする薬などがあります。これらで症状が改善することもあります。

しかし、歩行障害が進行し、日常生活に支障が出てくる場合には手術を行うこともあります。また両足に症状が出ている場合には改善することが少ないので手術を行う場合が多いと言われていますが、神経根型の場合はブロック注射などで軽快することも少なくないようです。

(整形外科、リハビリテーション科部長 井上 博文)